

第2章

1. 金沢大学宝町遺跡 医学部附属病院地区精神科病棟Ⅱ地点

(1) はじめに

医学部附属病院地区に属し、医学部附属病院病棟新営に伴う調査である。調査区は病棟Ⅰ・精神科病棟Ⅰ地点の北側に隣接するため、それらの地点の遺構や病院建物・土管などが改めて確認された。現在の病院敷地における崖際付近にあたる。

調査は平成12(2000)年2月23日～4月26日にかけて行われた。調査面積は約420m²である。

(2) 調査結果

近世(第5図)

病院時代の建物や、その後の配管等により多少の攪乱は受けているものの、総じて遺構の残りは良好であった。遺構は土坑が42、溝が6、集石遺構が3確認された。ただし土坑42基のうち、5基は病棟Ⅰ・精神科病棟Ⅰ地点で確認されていたものである。

遺構(第7,8図)・遺物(第9～12図)

土坑の多くは廃棄坑と植栽痕であるが、地下室も1基確認できた。土坑378は、遺構の南半分ほどが病棟Ⅰ・精神科病棟Ⅰ地点で確認されていたが、今回の調査により全体の形が明らかとなり、宝町遺跡ではこれまでにないタイプの地下室であることが判明した。方形の出入口が2箇所あり、室部の平面形は鉄アレイ形に似る。底面はほぼ平坦で、北入口部の真下の室部底面付近には石が多く散乱していた。

廃棄坑では、土坑244・1131があげられる。土坑244は病棟Ⅰ・精神科病棟Ⅰ地点でも確認された大型の土坑であり、遺構の規模は約600×320cmに及ぶ。出土遺物は多く、器種も多様である。土坑1131も大型の廃棄坑で、陶磁器のほか、瓦や土師質土器皿などが多く出土した。

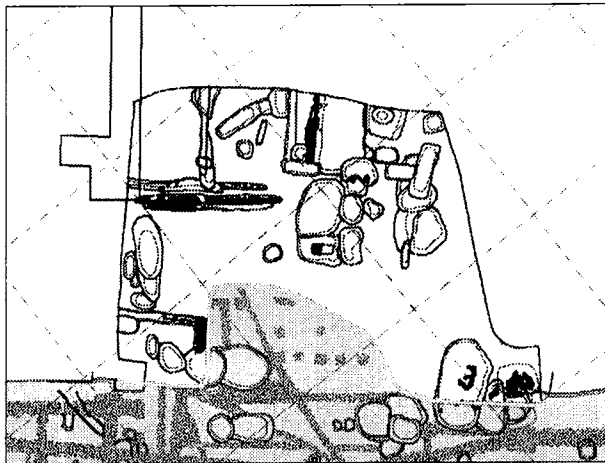
集石遺構(集石遺構5～7)は3箇所を確認され、溝状の遺構のうえに1～5cmほどの石が敷き詰められていた。おそらく土塀などの基礎栗石であった可能性がある。

溝状遺構は6条確認できたが、いずれも先で述べた集石遺構と並走したり、ほぼ直角に交わるように位置するため、集石遺構同様、屋敷境に関係した遺構であると思われる。

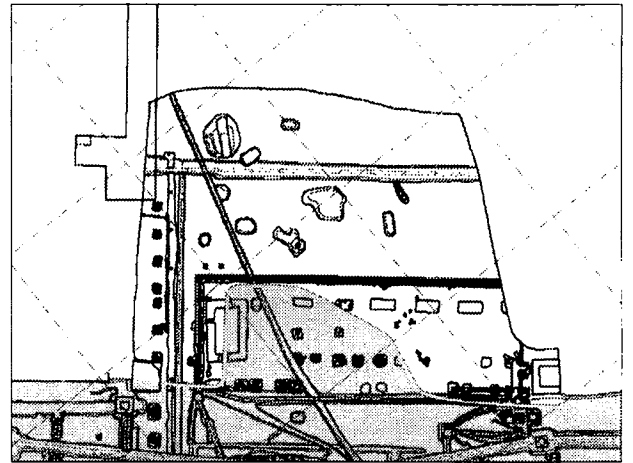
近・現代(第6図)

遺構・遺物

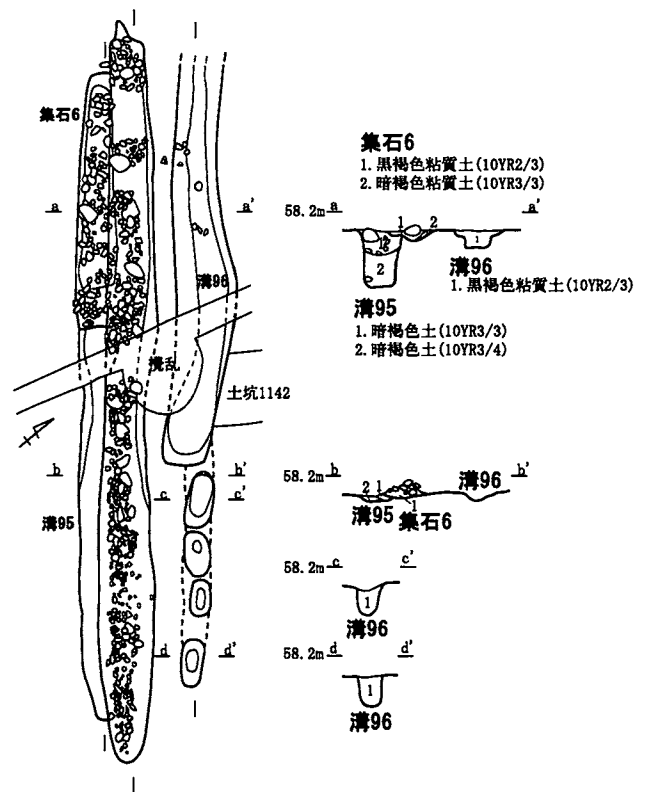
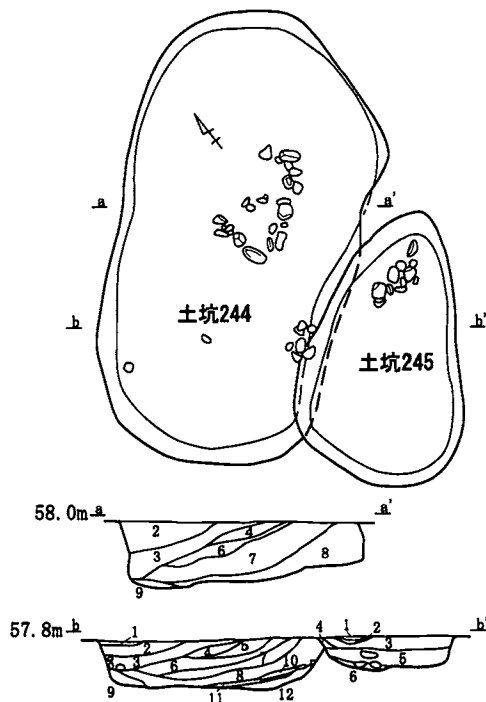
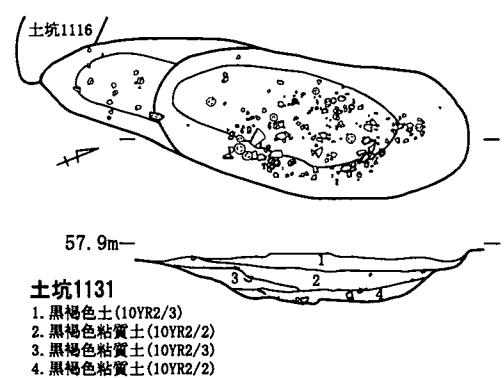
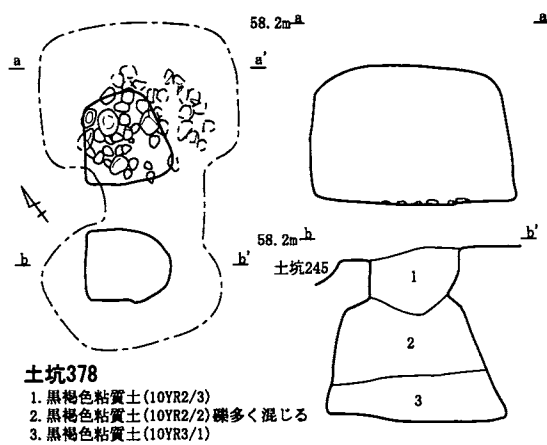
旧内科西病室と推定される病院建物(建物22)や廊下(建物11)とそれに属する桝、土管が確認された。近代遺構では、電柱の支えの掘り込み(近代遺構173・174・177・180)や病院食器が廃棄された穴(近代遺構179)などが確認された。確認された遺構や遺物は、病棟Ⅰ・精神科病棟Ⅰ地点と同様である。



第5図 精神科病棟Ⅱ地点 近世(1/500)

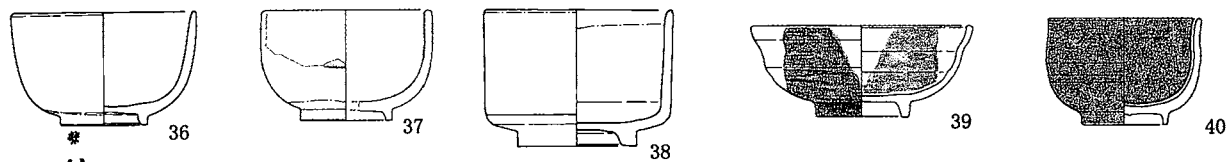
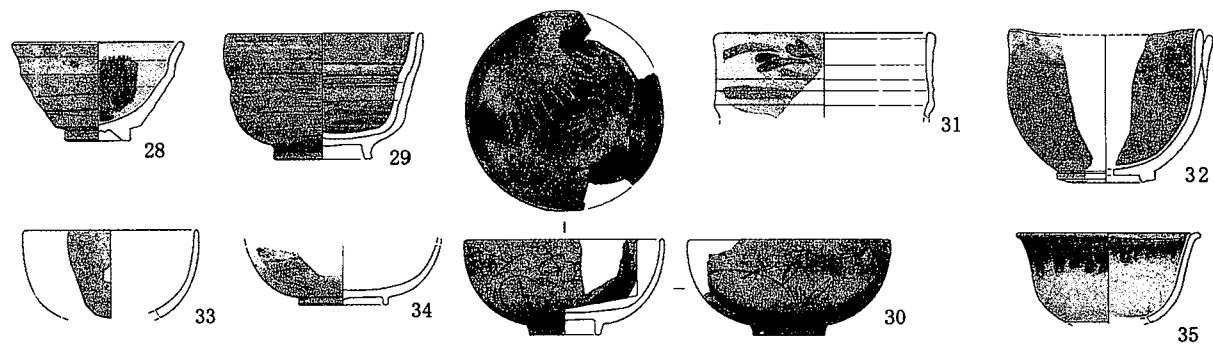
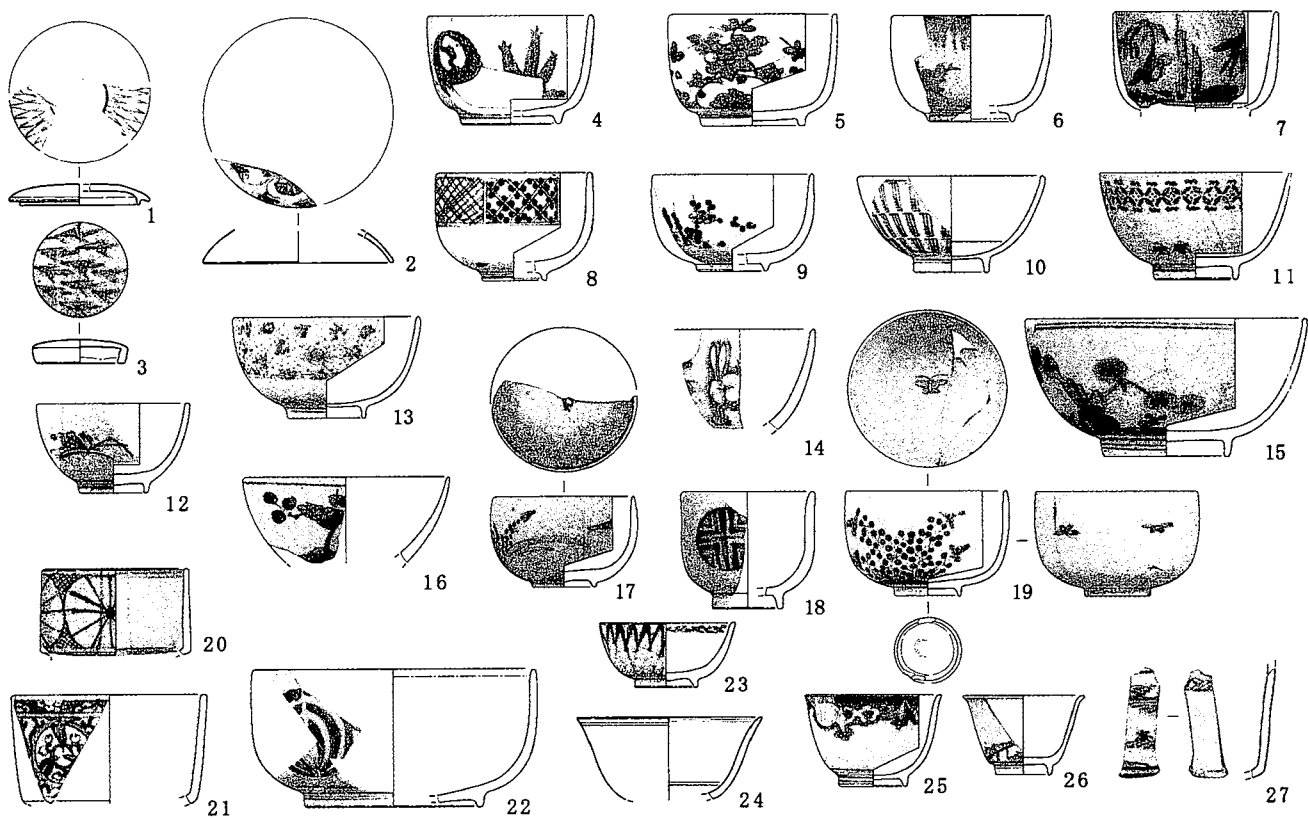


第6図 精神科病棟Ⅱ地点 近・現代(1/500)



第7図 精神科病棟Ⅱ地点 近世の遺構1 (1/100)

- 11 -

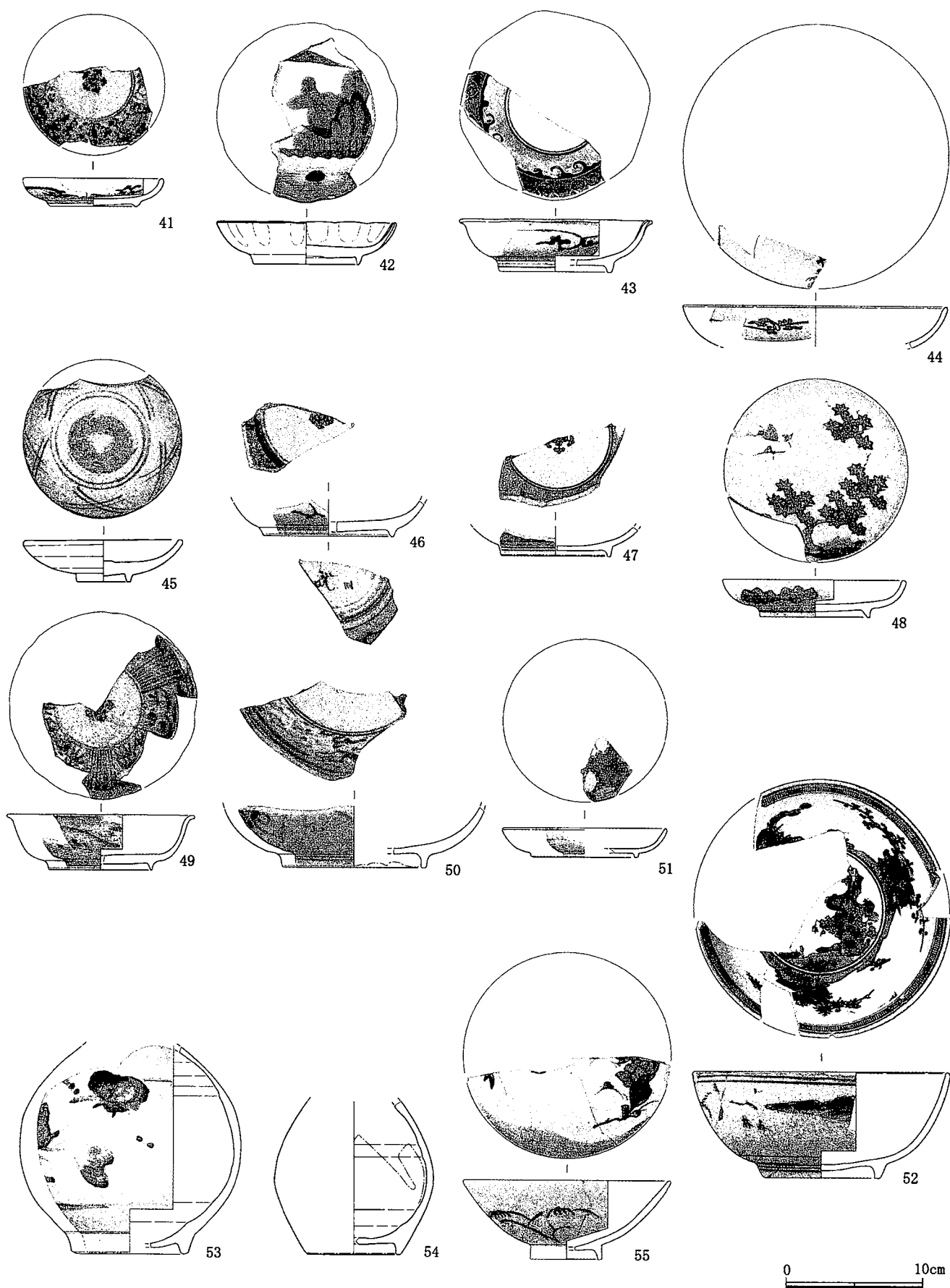


紫

0 10cm

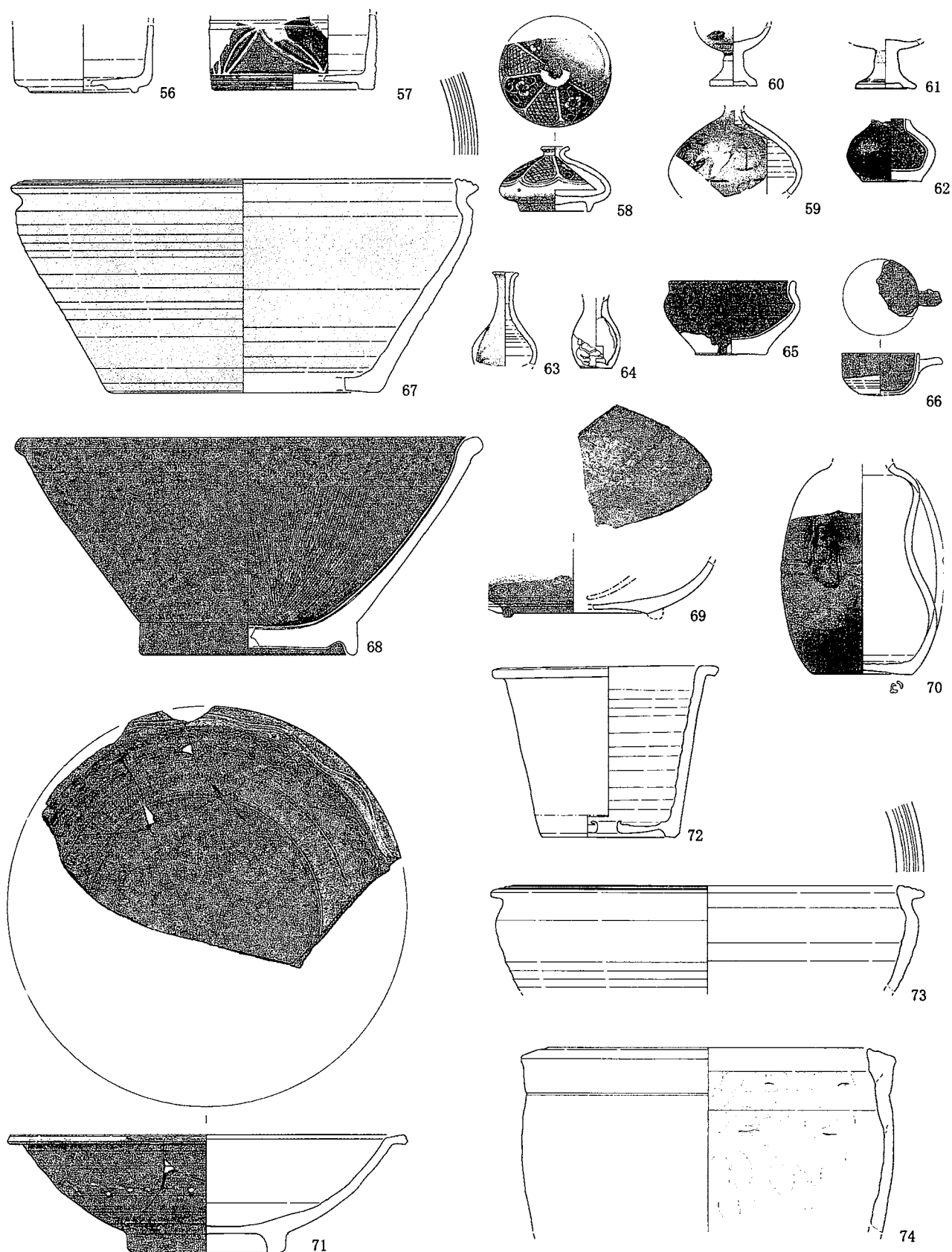
第9図 精神科病棟Ⅱ地点出土遺物1 (1/4)

1・2 磁器—色絵, 3～27 磁器—染付, 28 陶器—藁灰釉・鉄釉, 29・39 陶器—灰釉・白泥, 30 陶器—透明釉・白泥・鉄絵, 31・33・34 陶器—灰釉・色絵, 32 陶器—鉄釉・緑色釉, 35 陶器—灰釉・緑色釉, 36～38 陶器—灰釉, 40 陶器—鉄釉



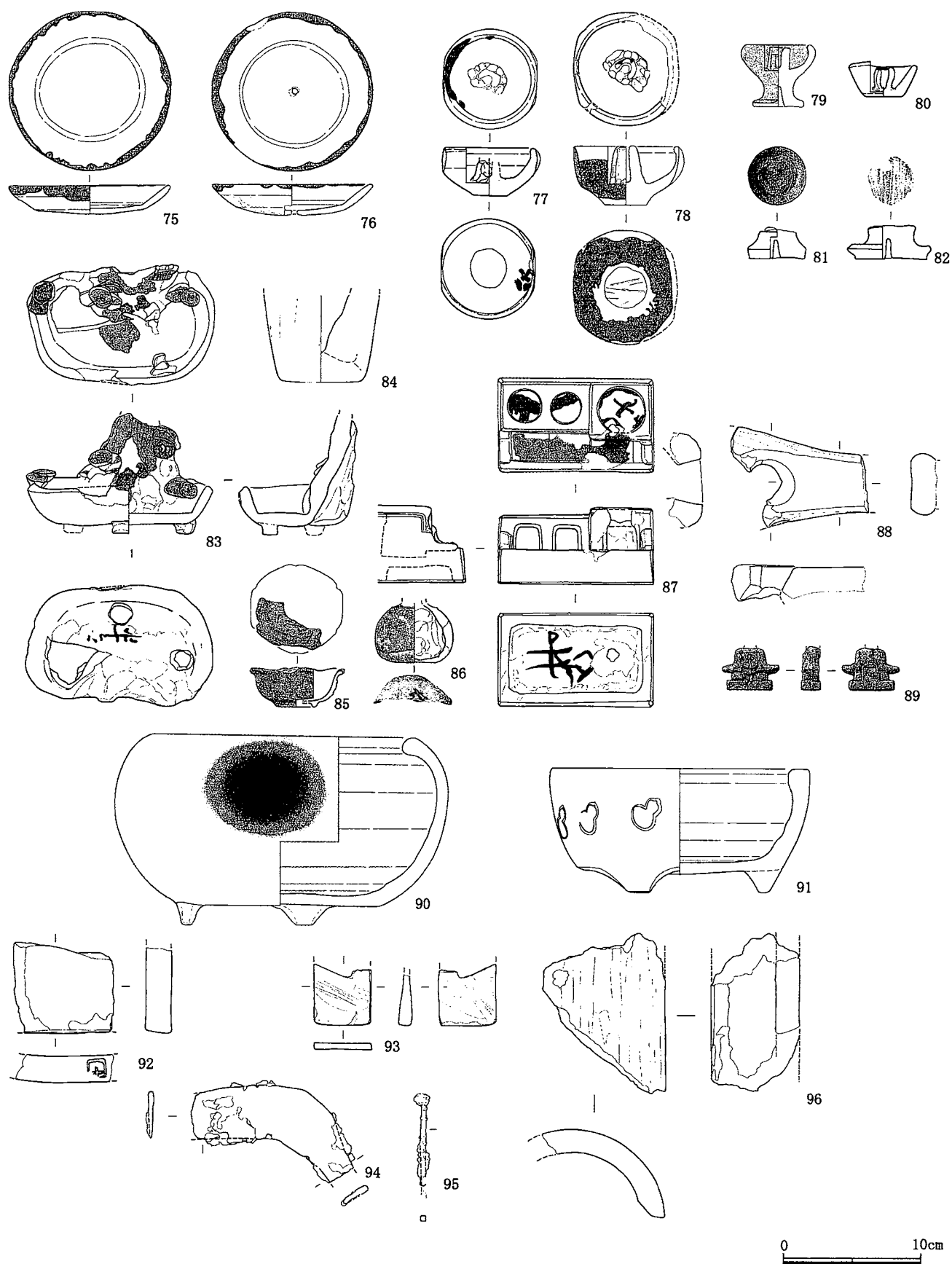
第10図 精神科病棟Ⅱ地点出土遺物2 (1/4)

41～53・55磁器—染付, 54白磁



第11図 精神科病棟Ⅱ地点出土遺物3 (1/4)

56 青磁, 57 陶器—綠色釉, 58, 59 磁器—色絵, 60・63 磁器—染付, 61・64 白磁, 62・65・66・68 陶器—鉄釉, 67 陶器—鉄泥
69 陶器—灰釉・白泥, 70・73・74 陶器, 71 陶器—灰釉・鉄泥・白泥, 72 陶器—灰釉



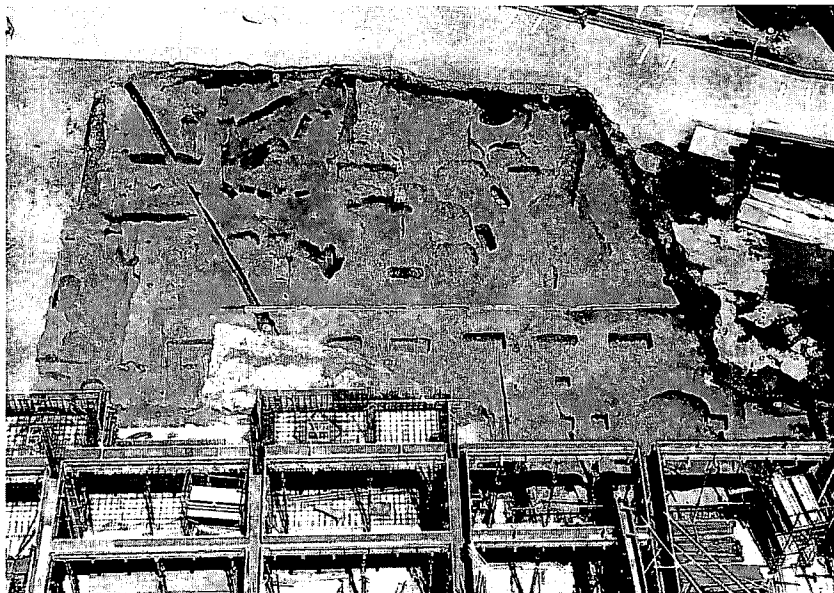
第12図 精神科病棟Ⅱ地点出土遺物4 (1/4)

75～77・80～82・84・85・87～91 土師質土器, 78・86 土師質土器—透明釉, 79 陶器—鉄釉, 83 土器—緑色釉・透明釉, 93 石製品, 94 鉄製鎌, 95 鉄釘, 92・96 いぶし瓦

精神科病棟Ⅱ地点
調査区遠景
(卯辰山中腹を望む)



精神科病棟Ⅱ地点
調査区全景



土坑 378



土坑 244



集石 6



出土遺物
(土坑1131)

